

## 第2章

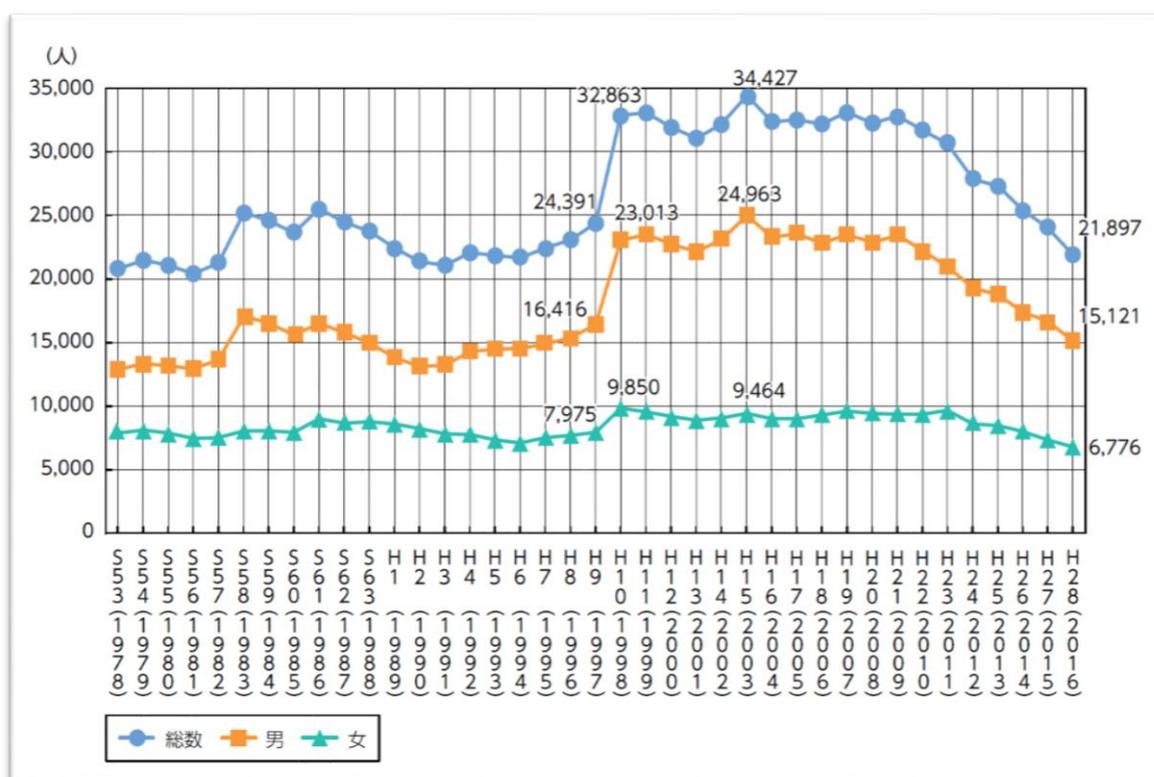
# 奄美市の現状

## 第2章 奄美市の現状

### 1 全国の自殺者数の推移

全国の自殺者総数は、平成10年には32,863人と急増し、平成15年のピーク時には34,427人となりましたが、平成22年度以降は減少傾向にあります。

【図1 全国の自殺者数の推移】



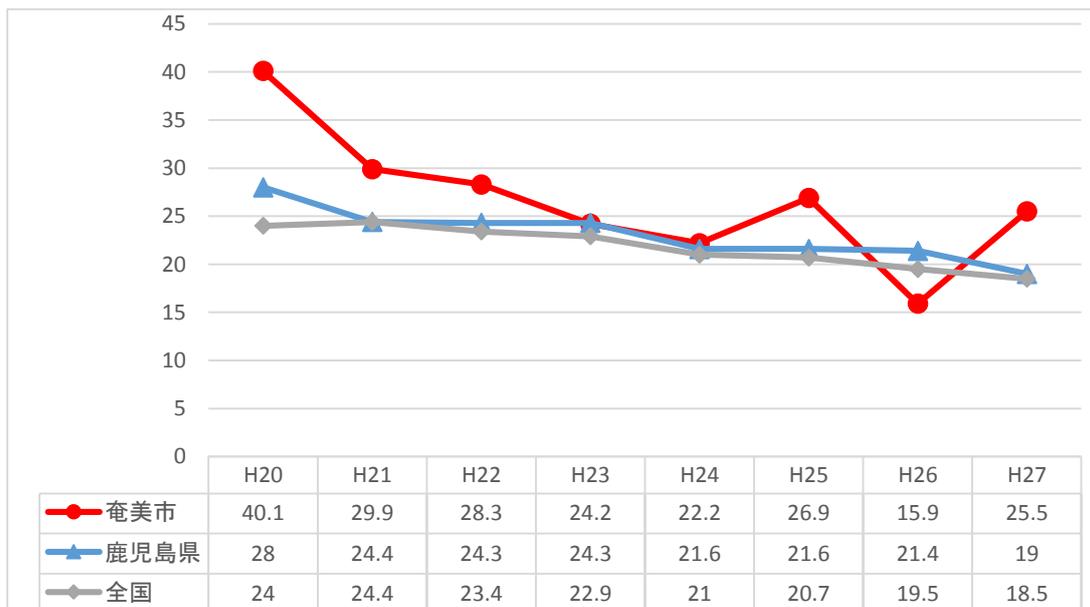
(資料：自殺対策計画策定の手引き 厚生労働省)

## 2 本市の自殺の現状

### 1) 自殺死亡率・自殺者数の推移

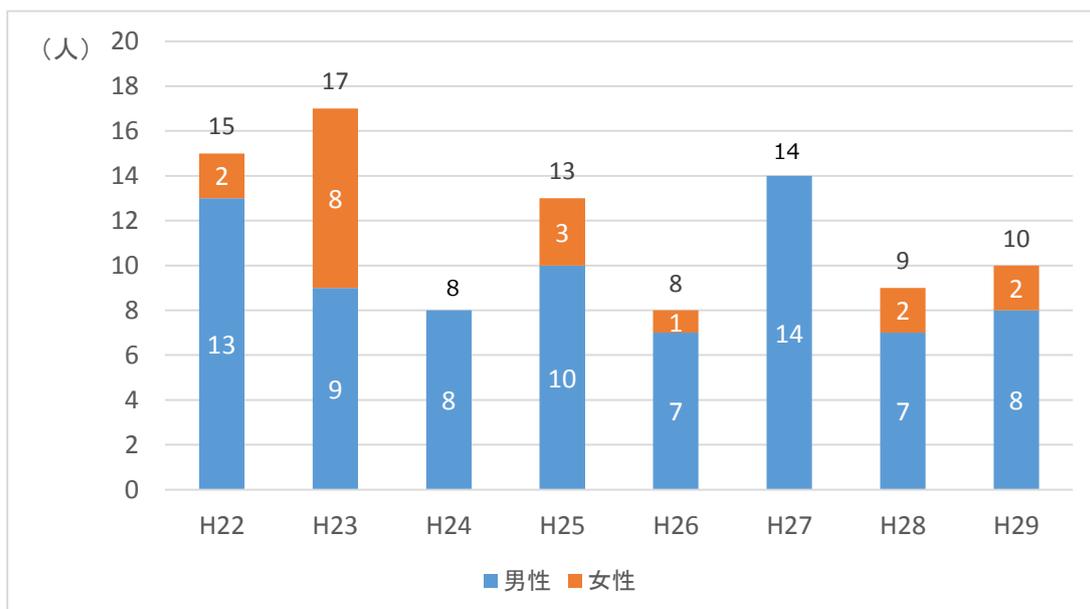
全国・鹿児島県・本市で自殺死亡率を比較すると、全国と鹿児島県は減少傾向にあります。本市は横ばいであり、全国・鹿児島県と比べて依然として高い状態にあります。

【図2 自殺死亡率の推移（人口10万人あたりの自殺者数）】



(資料：人口動態統計)

【図3 本市の自殺者数の推移（性別）】

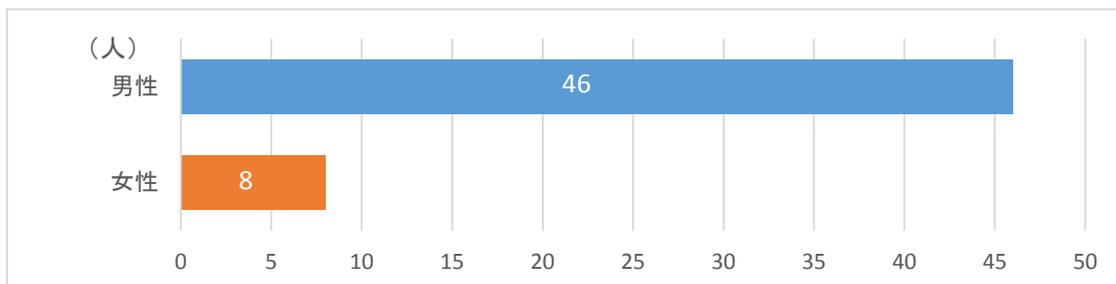


(資料：地域自殺実態プロフィール 2018年版)

## 2) 性別・年齢別

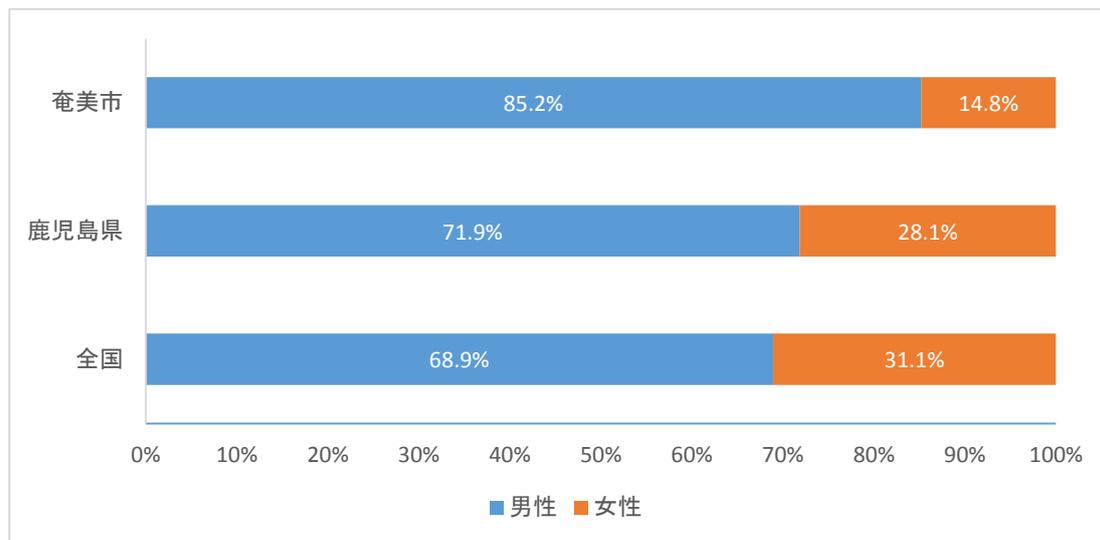
本市の自殺者を性別で比較すると、図 4 からわかるとおり、男性が多くなっています。全国や県と比較すると、本市はさらに男性の割合が高くなっています。(図 5)

【図 4 自殺者の人数 (性別) (H25～H29 合計)】



(資料：地域自殺実態プロファイル 2018 年版)

【図 5 自殺者の性別割合 (H25～H29)】

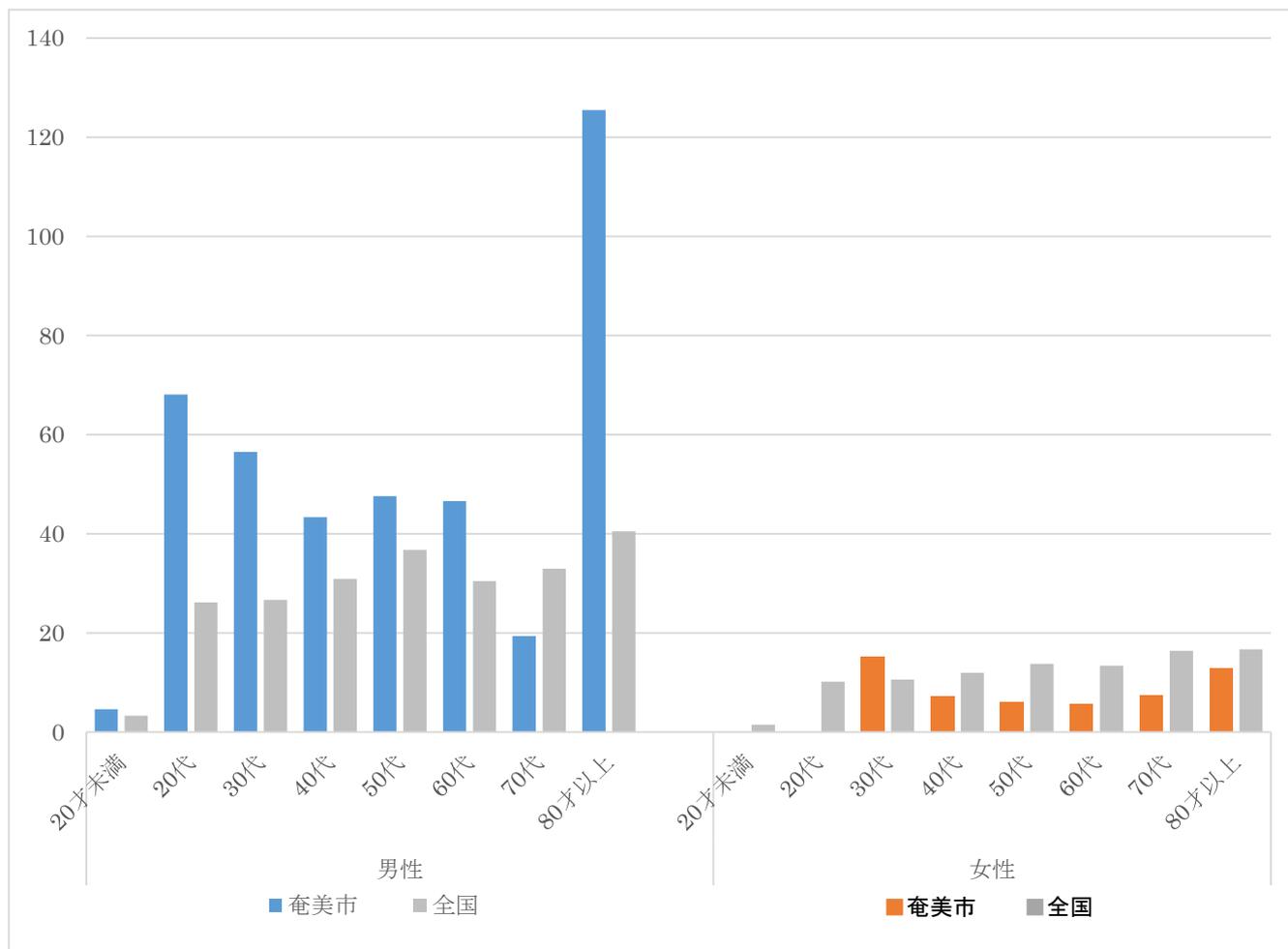


(資料：地域自殺実態プロファイル 2018 年版)

性・年齢別自殺死亡率を全国と比較すると、男性はほとんどの年代において、全国よりも高くなっています。

一方、女性は30歳代のみ全国より高くなっています。

【図6 性・年齢別の自殺死亡率比較 H25～H29(人口10万人当たりの自殺者数)】

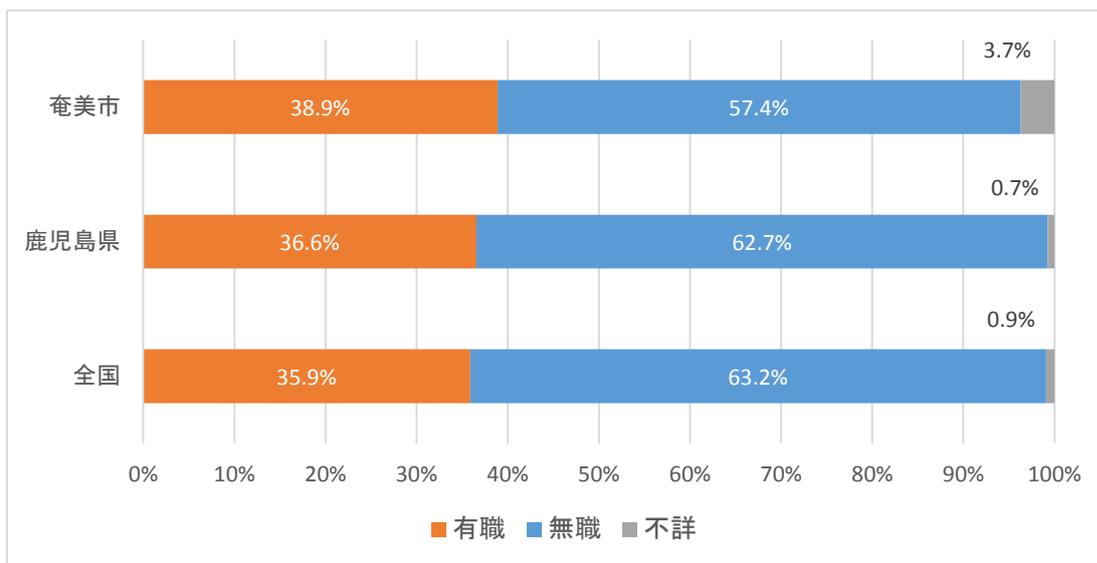


(資料：地域自殺実態プロファイル 2018年版)

### 3) 職業について

自殺者を職業の有無で比較すると、無職者の自殺の割合が高いことがわかります。

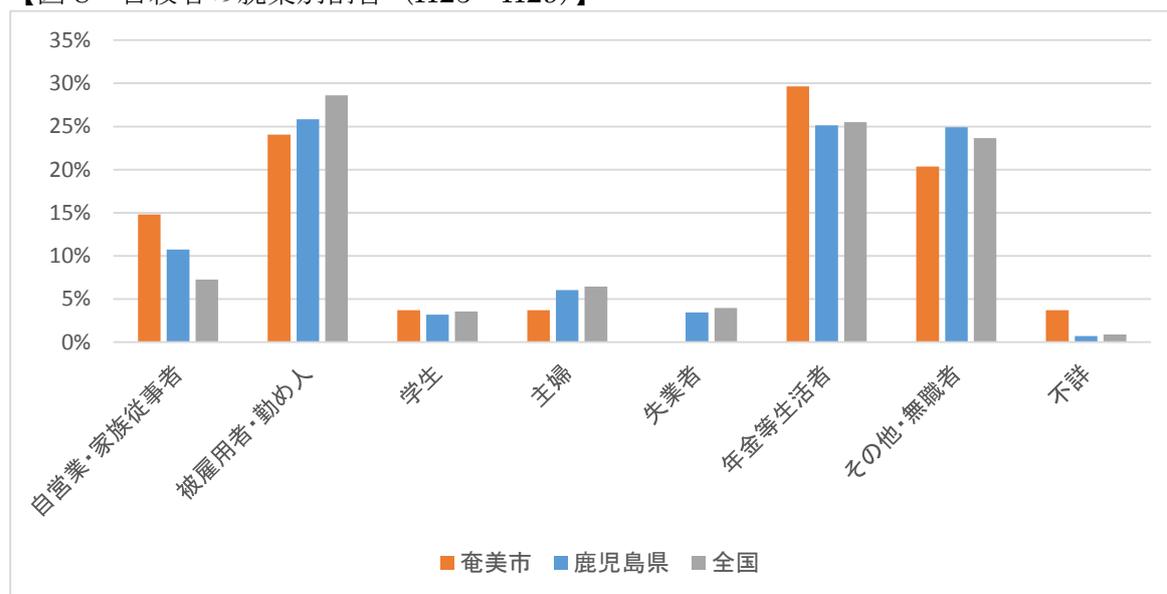
【図7 自殺者の職業有無の割合 (H25～H29)】



(資料：地域自殺実態プロファイル 2018 年版)

就業別に比較すると、本市は「年金等生活者」が最も高く、次いで「被雇用者・勤め人」「その他・無職者」の自殺の割合が高い状況です。

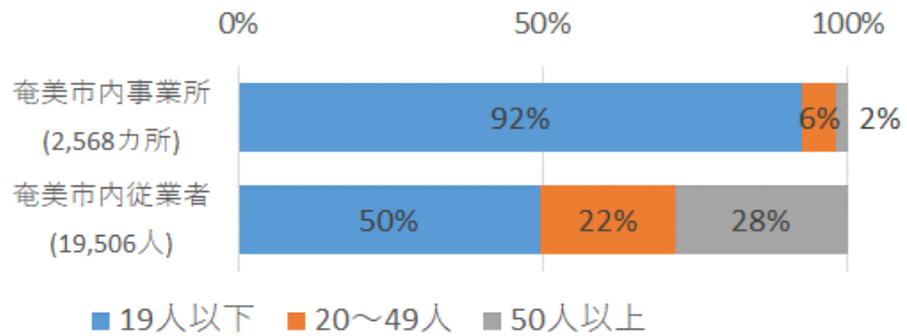
【図8 自殺者の就業別割合 (H25～H29)】



(資料：地域自殺実態プロファイル 2018 年版)

本市の規模別事業所の割合をみると、19人以下の小規模事業所の割合が92%を占めています。

【図9 地域の事業所規模別事業所／従業者割合（H26 経済センサス-基礎調査）】

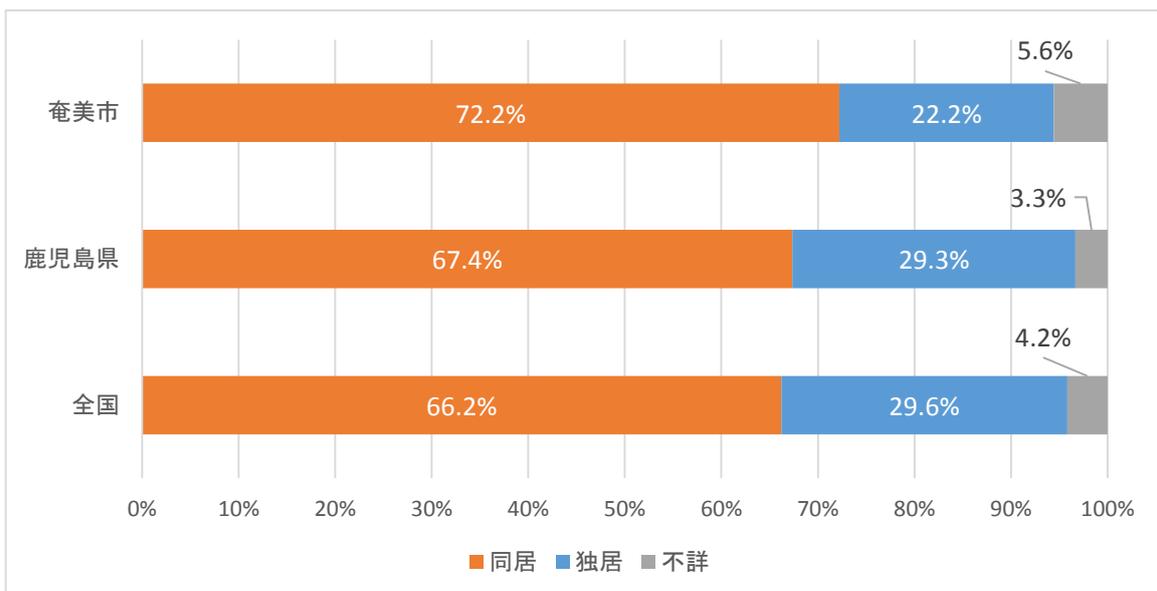


(資料：地域自殺実態プロファイル 2018年版)

#### 4) 同居人の有無

自殺者の同居人の有無の割合を比較すると、全国・県・本市ともに「独居」より「同居人あり」が高い状況です。

【図10 自殺者の同居・独居の割合（H25～H29）】

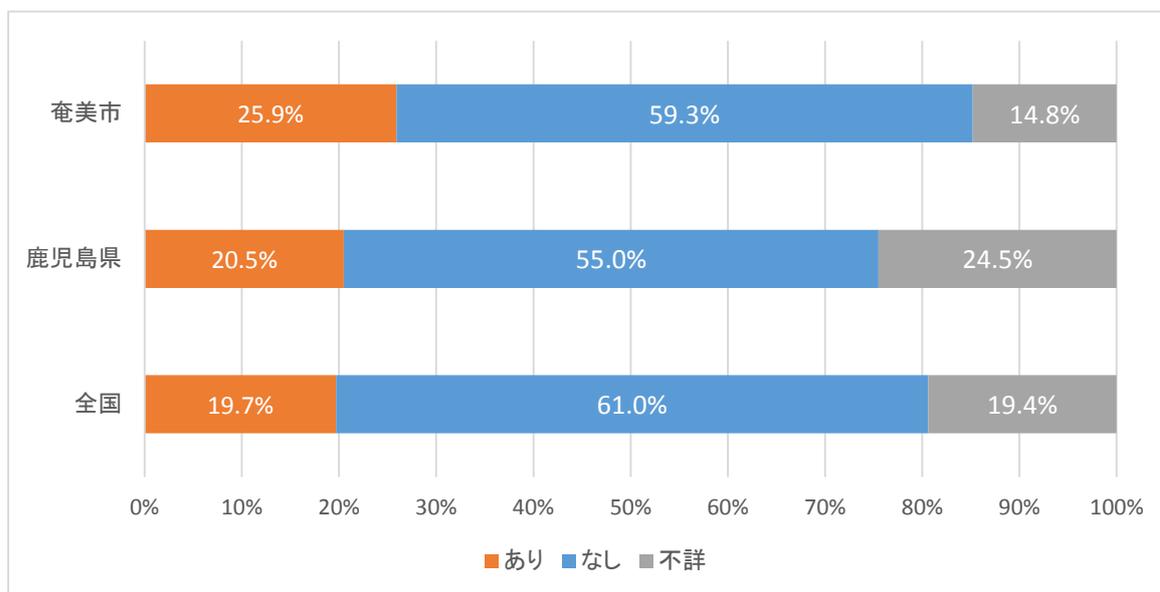


(資料：地域自殺実態プロファイル 2018年版)

### 5) 自殺未遂歴の有無

自殺者の自殺未遂歴の有無について、全体の 25.9%が「自殺未遂歴あり」となっています。

【図 11 自殺者における未遂歴の有無の割合 (H25～H29)】



(資料：地域自殺実態プロファイル 2018 年版)

### 6) 優先されるべき対象

「地域自殺実態プロファイル 2018 年版」で示された性・年齢階級別・職業・同居の有無別の分析表では、以下のとおりとなります。

これまでの統計より、本市における自殺対策の優先されるべき対象は、「高齢者」「生活困窮者」「子ども・若者」「勤務・経営者」となります。

【表 1 優先されるべき対象】

上位 5 区分	H25～29年 (5年間) 自殺者数54人	
	人数	割合
1位: 男性60歳以上 無職 同居	11人	20.4%
2位: 男性20～39歳 有職 同居	9人	16.7%
3位: 男性40～59歳 有職 同居	6人	11.1%
4位: 男性40～59歳 無職 同居	4人	7.4%
5位: 男性60歳以上 無職 独居	4人	7.4%

(資料：地域自殺実態プロファイル 2018 年版)

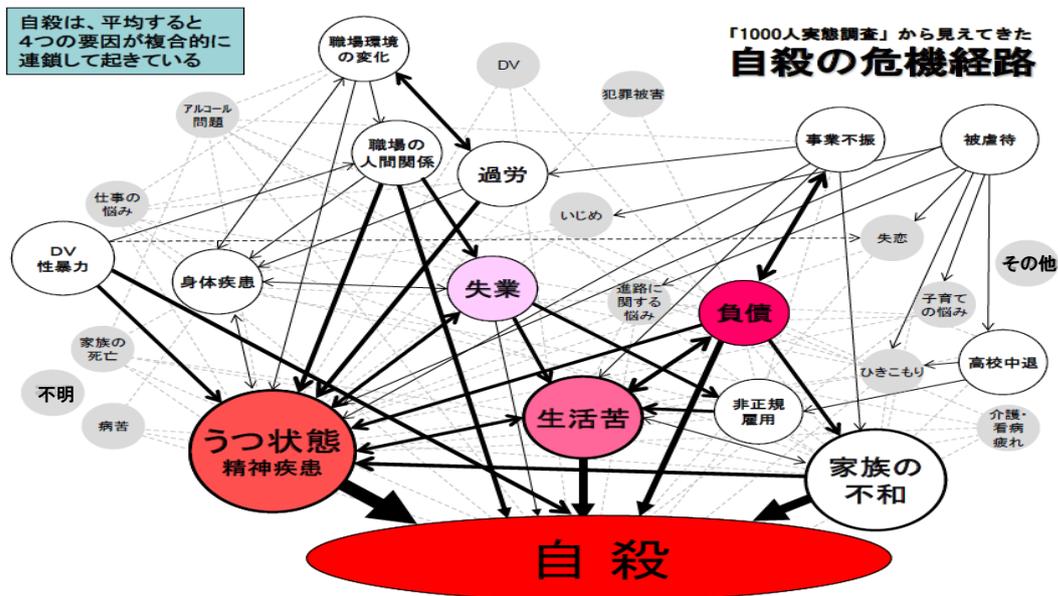
## ◆ コラム ◆ ～ 自殺の原因 ～

NPO 法人自殺対策支援センターライフリンクが行った「自殺実態 1000 人調査」では、調査結果を以下のように示しています。

図中の○印の大きさは自殺要因の発生頻度を表しており、大きいほど要因の頻度が高いことを示します。また、矢印の太さは各要因間の因果関係の強さを示しています。

自殺の直接的な要因としては「うつ状態(精神疾患)」の円が最も大きくなっていますが、うつ状態になるまでには複数の要因が存在し、連鎖しています。自殺で亡くなった人は、「平均 4 つの要因」を抱えていたことがわかっています。

### 【自殺の危機経路】



(資料：NPO 法人ライフリンク 2014)

### 【危機経路の例】

- ◆ 20～39歳男性 配置転換→職場の人間関係→過労→うつ状態→自殺
- ◆ 40～59歳男性 失業→生活苦→借金→家庭の不和  
→アルコール依存症→自殺
- ◆ 60歳以上男性 ・退職→死別・離別→うつ状態→将来への悲観→自殺  
・事業不振→借金→介護疲れ→うつ状態→自殺
- ◆ 20～30代女性 離婚→非正規雇用→生活苦→子育ての悩み  
→うつ状態→自殺
- ◆ 60代以上女性 死別・離別→身体疾患→うつ状態→自殺

(資料：地域自殺実態プロファイル 2018 年版)

### 3 本市の現状(自殺に関連する統計)

#### 1) 人口統計

総人口は年々減ってきていますが、高齢化率は高くなっています。

【図 12 人口の推移と高齢化率】



(資料：住民基本台帳 (住基人口 4 月 1 日の数に基づく))

65 歳以上人口は年々増加し、独居高齢者率も年々増加しています。

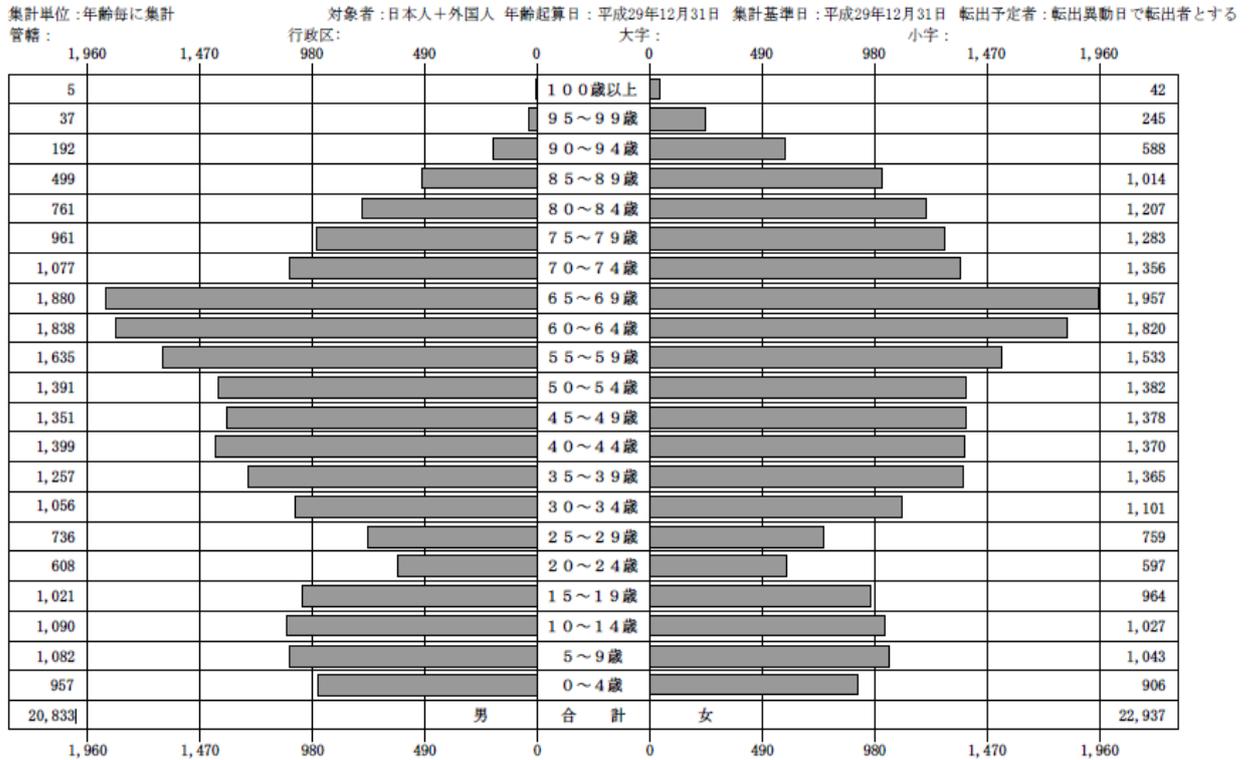
【図 13 一人暮らし高齢者の推移 (住民基本台帳の実績値)】



(資料：住民基本台帳 (住基人口 4 月 1 日の数に基づく))

20代の人口が少ない理由として、進学・就職に伴い島外へ転出する人が多いことがあげられます。

【図14 人口の推移（人口ピラミッド H29）】

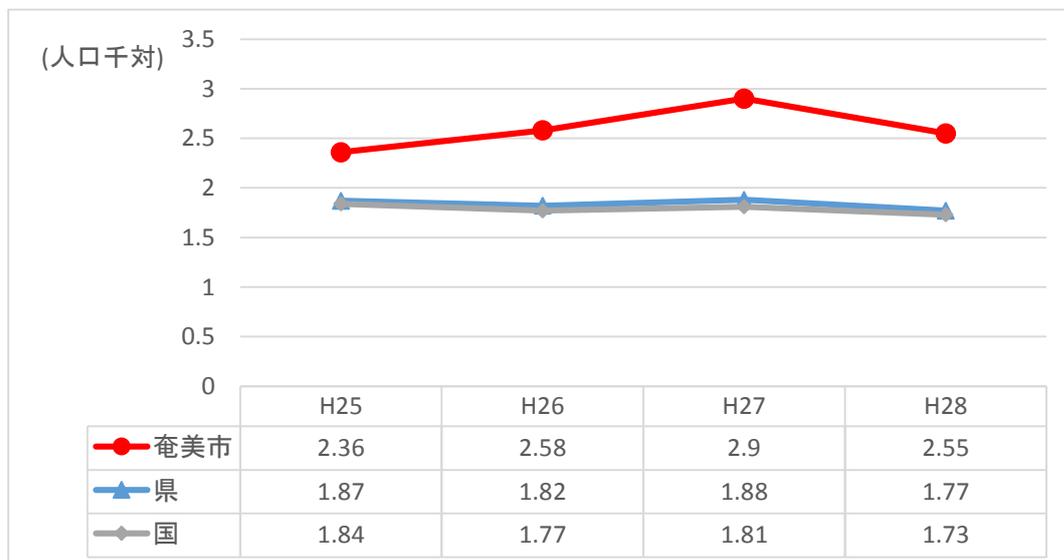


(資料：住民基本台帳)

2) 離婚率

本市は、全国・県と比べて離婚率が高い状況です。

【図15 離婚率の推移】

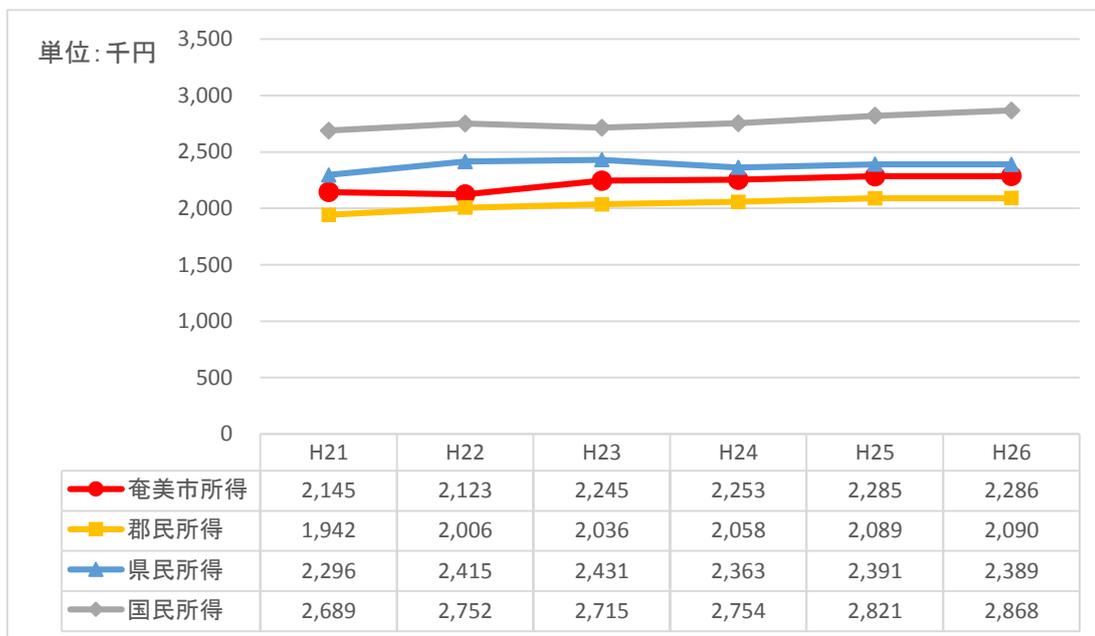


(資料：衛生統計年報)

### 3) 所得

所得は、全国や県と比べて低い水準となっており、奄美群島全体でみても同傾向にあります。

【図 16 所得の推移】

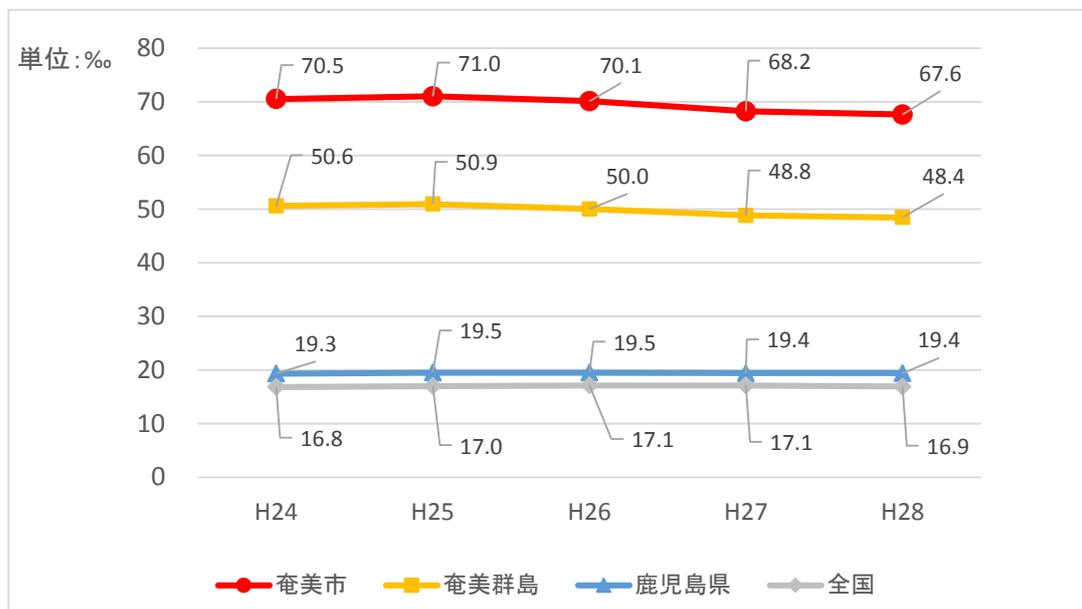


(資料：数字で見る奄美市)

### 4) 生活保護

生活保護率は、全国・県と比べて奄美群島は高い傾向にありますが、本市は特に高い状況です。

【図 17 生活保護率の推移】

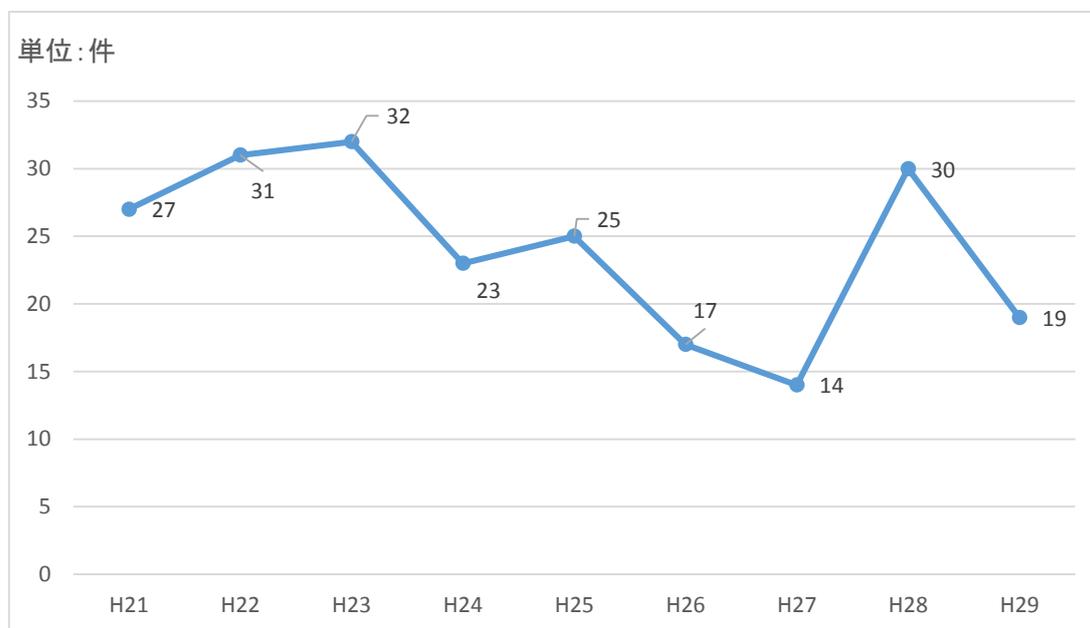


(資料：奄美群島の概況)

## 5) 救急搬送

自損事故(自殺や自殺未遂)での搬送は、毎年10~30件程度発生しています。

【図18 救急車の出動状況(自損事故)】



(資料:数字で見る奄美市)

#### 4 自殺対策計画策定に関する市民アンケート結果

◆調査期間：平成30年7月～12月

◆対象者：ミニ人間ドック検診受診者および乳幼児健診保護者

◆回答数：1,761件

(ミニ人間ドック検診受診者：1,425件 乳幼児健診保護者：336件)

##### 1) 回答者数

◆性別

男	女	計
534	1,227	1,761

◆年代別

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	年齢不明	計
65	209	179	202	586	388	97	35	1,761



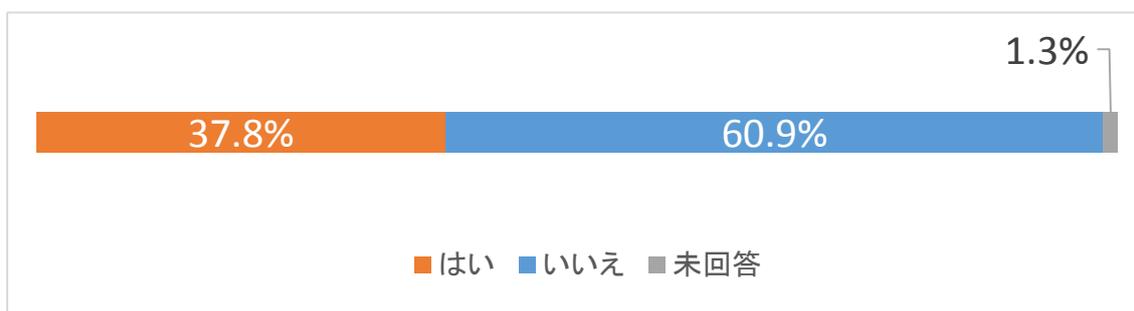
## 2) 回答結果

質問1 「自殺予防週間」または「自殺予防月間」があることをご存知ですか？

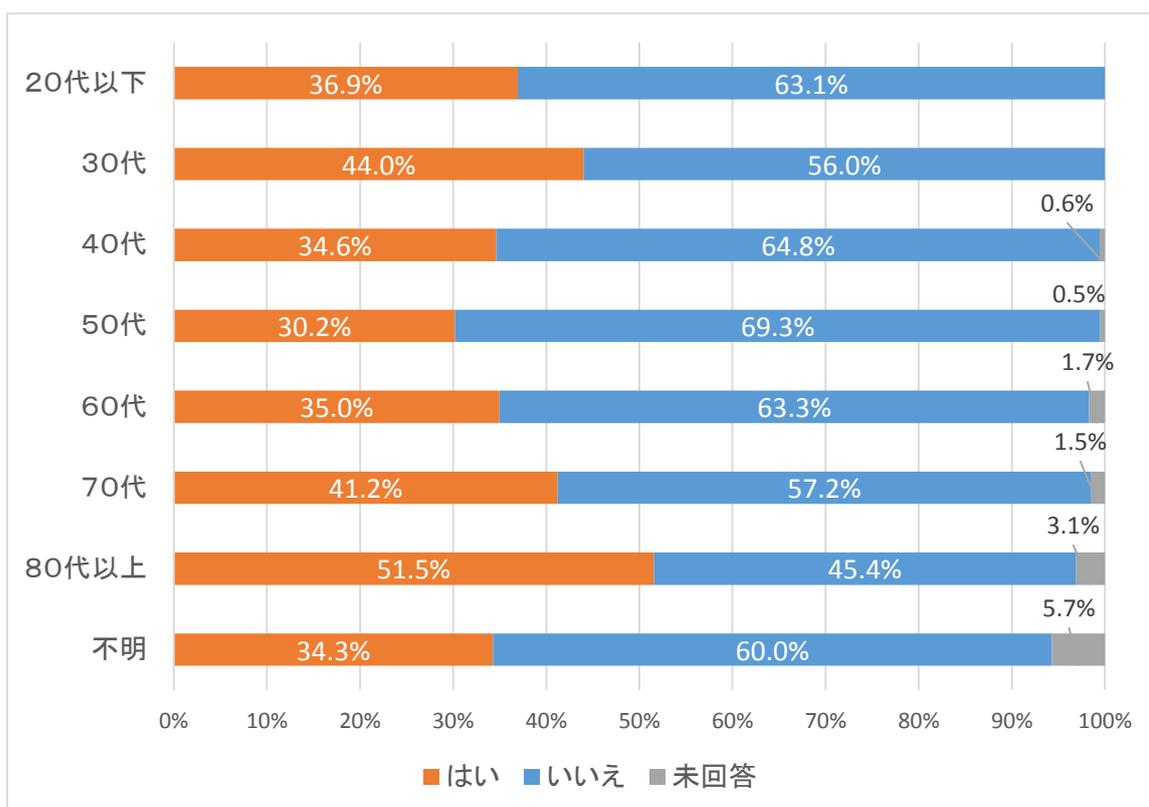
「自殺予防週間・月間」の認知度は、37.8%となっています。

今後、パンフレット配布等を通して週間・月間について周知をし、自殺予防について理解を深めていく必要があります。

### ◆全体



### ◆年代別

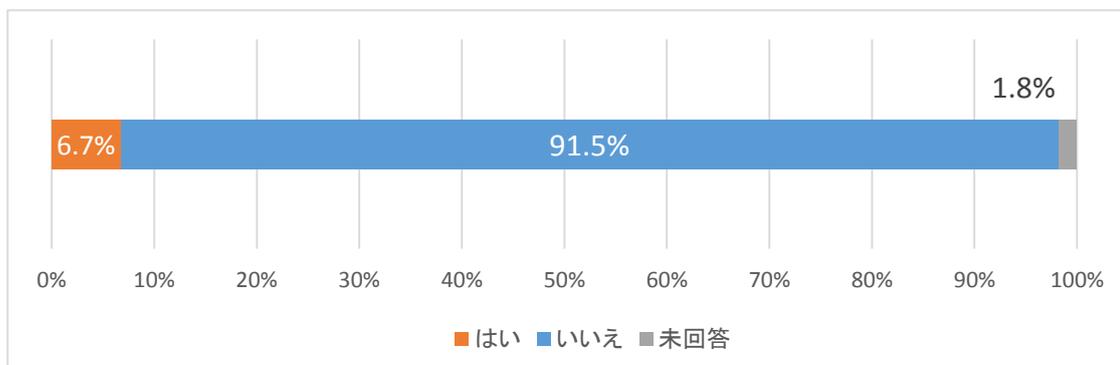


## 質問2 「ゲートキーパー」をご存知ですか？

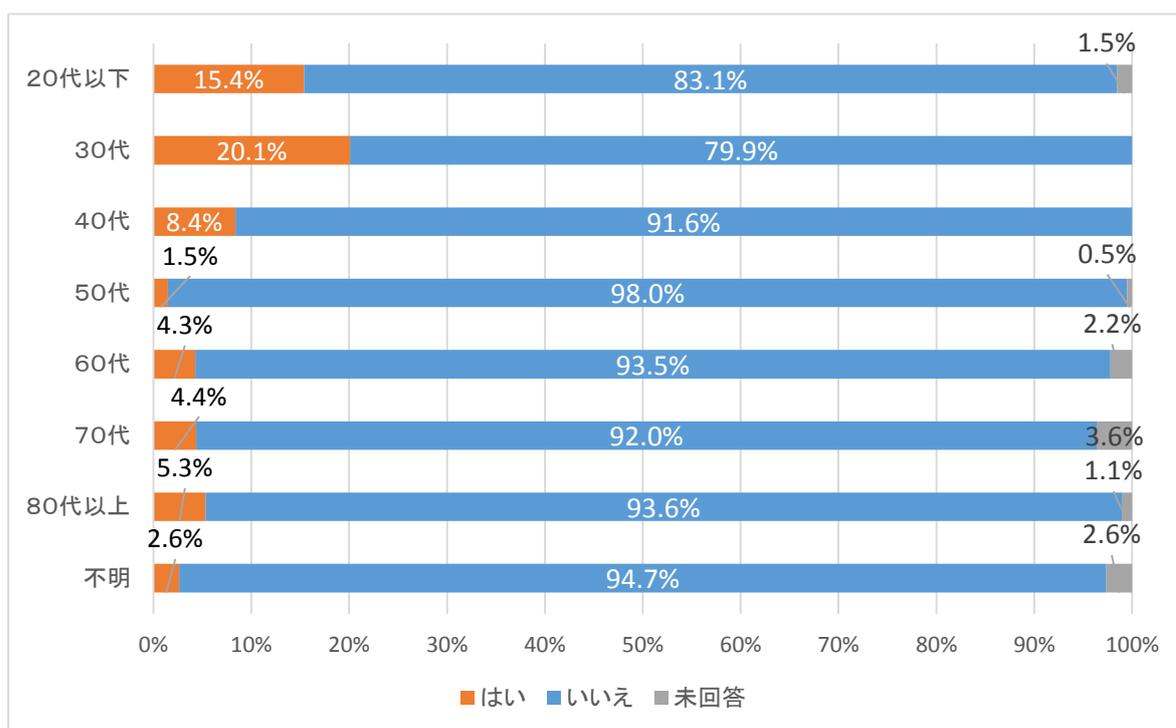
「ゲートキーパー」の認知度は、**6.7%**と低い状況です。今後、「ゲートキーパー」の役割を周知する必要があります。

※ゲートキーパーとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話をきいて、必要な支援につなげ、見守る）ができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。（厚生労働省ホームページより）

### ◆全体



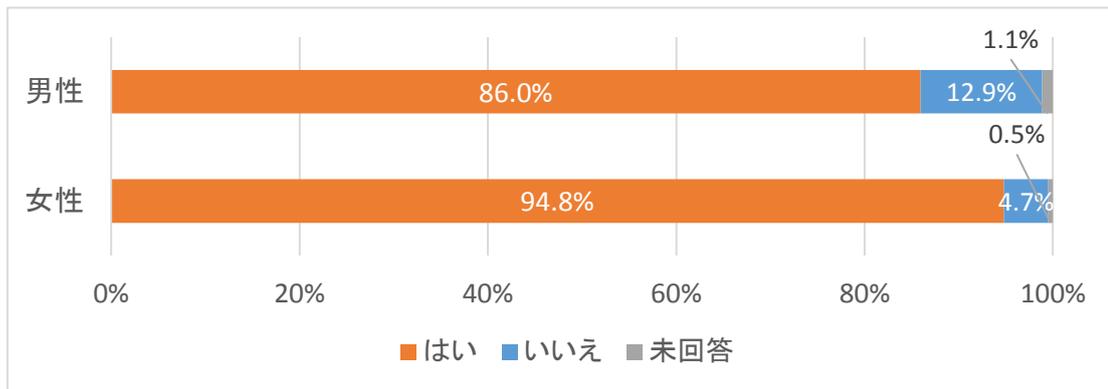
### ◆年代別



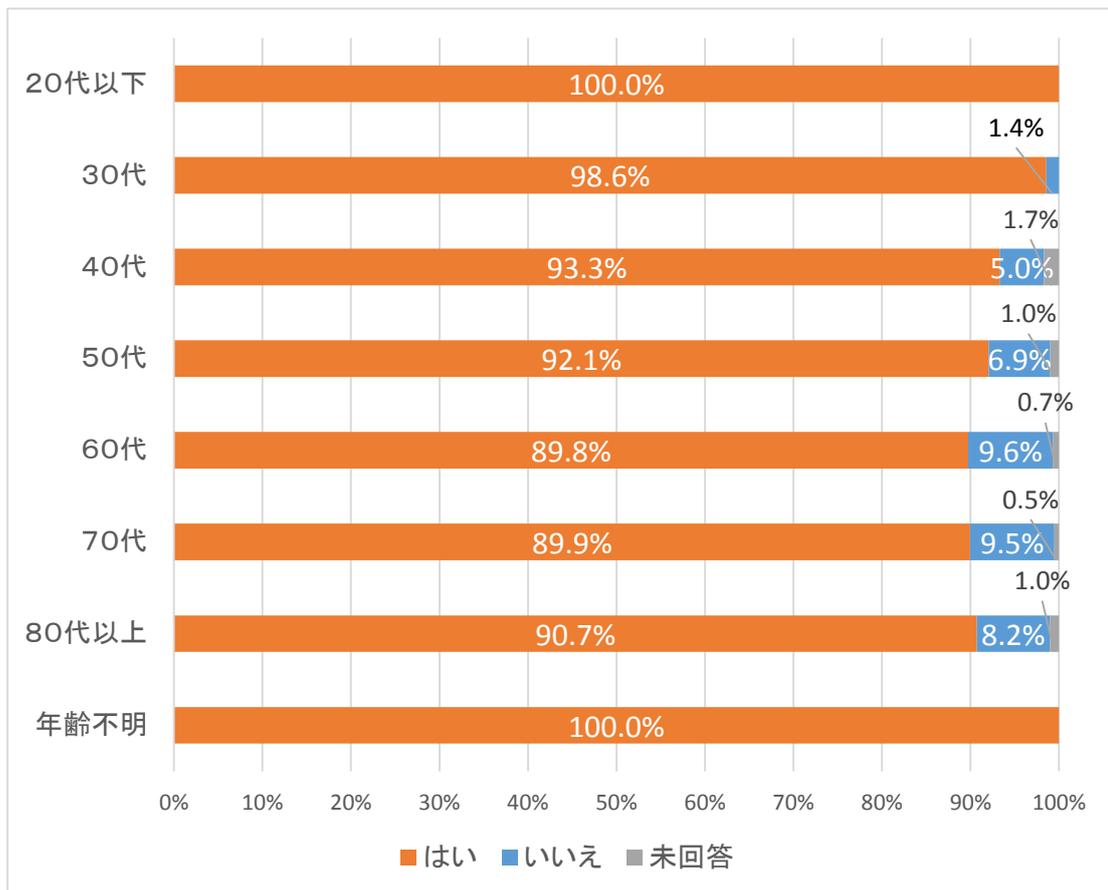
### 質問3 不安や悩みがあるとき、話を聴いてくれる人はいますか？

不安や悩みがあるとき、話を聴いてくれる人がいる割合は、男性 86.0%、女性 94.8%と女性が高い状況で、男性の 12.9%が「いない」と回答しています。また、年代別では60歳以上に話を聴いてくれる人がいないと回答している割合が高い状況です。

#### ◆性別



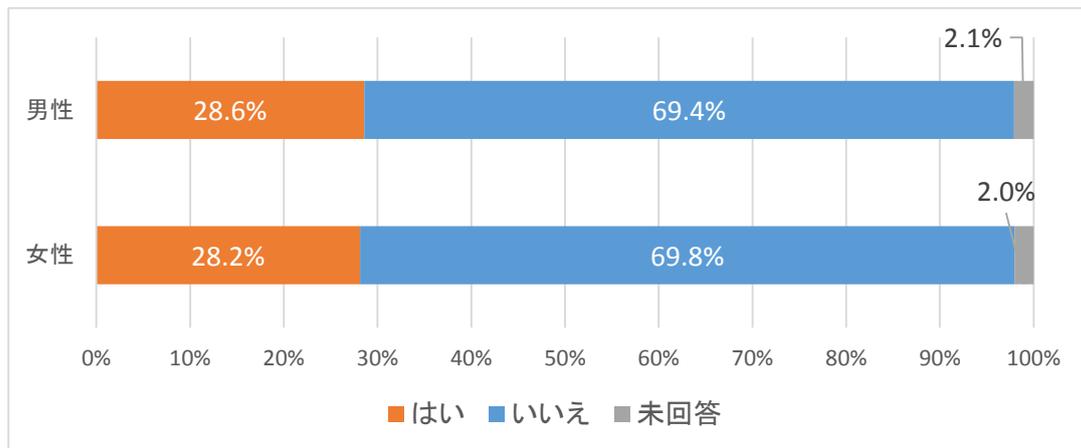
#### ◆年代別



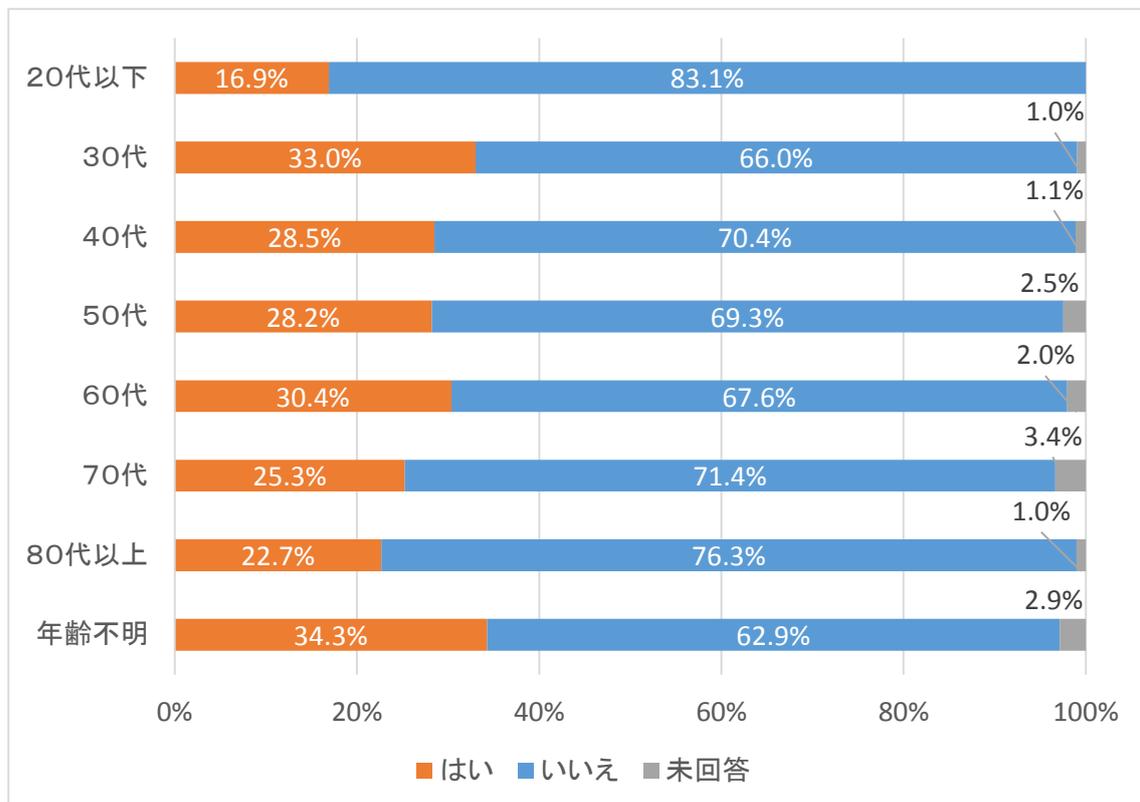
質問 4 誰かに相談をしたり，助けを求めたりすることにためらいを感じますか？

相談をしたり，助けを求めたりすることにためらいを感じる割合は，男性 28.6% 女性 28.2%と差はなく，3割弱の人がためらいを感じていると答えています。

◆性別



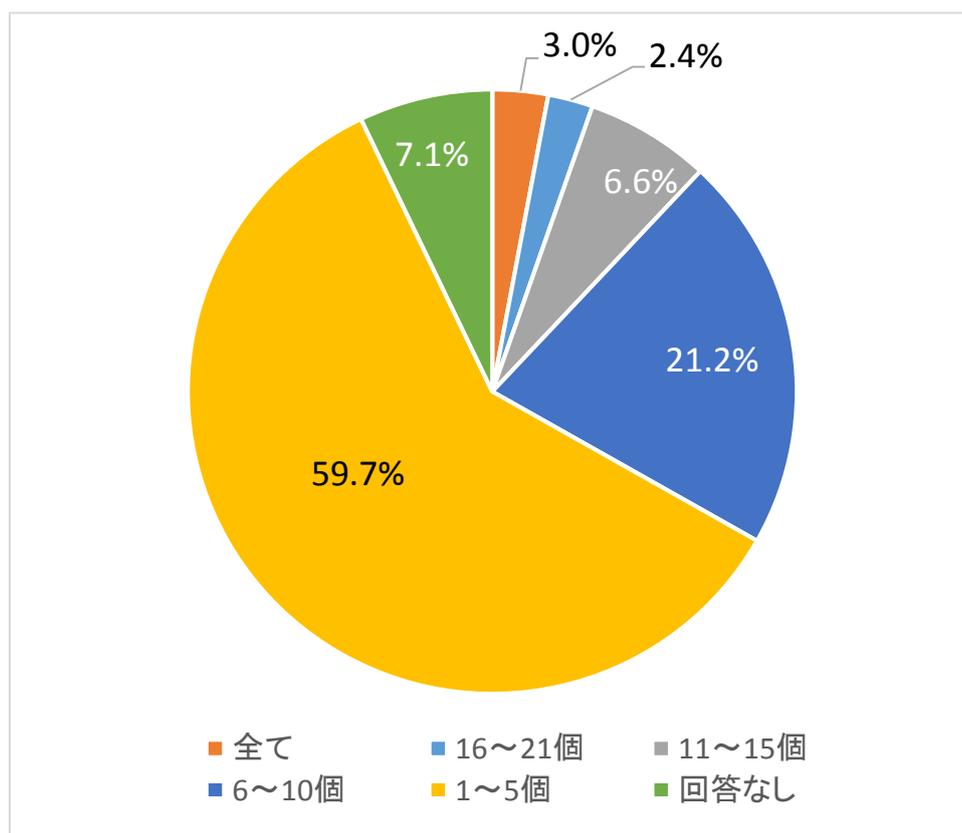
◆年代別



質問 5 自殺に追い込まれる要因として、考えられると思うものに○をつけてください。

うつ病 経済面での悩み 借金 病気 家庭不和 家庭内暴力  
失業 失恋 職場環境の変化 過労 アルコール問題 介護疲れ  
いじめ 人間関係の悩み 進路の悩み ひきこもり 発達障害 離婚  
身近な人の死 子育ての悩み 虐待 仕事の悩み

上記の 22 項目は、全てが自殺に追い込まれる要因となり得ますが、1~5 個の項目を選択した方が 59.7%と最も多く、22 項目全てを選択した方は全体の 3%となっています。



自殺に追い込まれる要因と考えられると思うものは、「うつ病」「病気」「借金」の順に多くなっています。

しかし、自殺は様々な悩みや要因が重なりあって追い込まれ自殺に至る可能性が高いため、今後、自殺に関する知識の普及・啓発が必要です。

